

大人の図書室

ごく普通の専業主婦がNPOを立ち上げ、ヨーロッパと四国を結ぶ架け橋に……。WEBで話題の「すごいお母さん」の活動を集約。読むとなにか新しいことをはじめたくなる、前向きなパワーに満ちた一冊です。

photographer: Naofumi Mioki text: Hanae Kudo BOOK LUCK

interview

ご“本”人に聞きたいこと 尾崎美恵さん



香川県に住む普通の専業主婦が、子育ての終了と共に自らの活動をスタート！大学院入学、NPO設立、数々のイベントプロデュース……。好奇心と行動力を持ってひた走る、「すごいお母さん」の20年分のエピソードを一冊に。前向きに人生を楽しむためのヒントが満載！

『すごいお母さん、EUの大統領に会う』

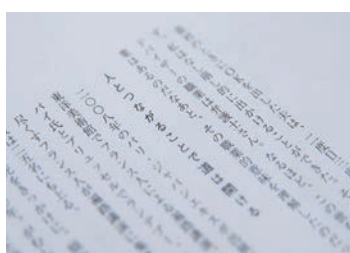
尾崎美恵 ￥0.000 (文藝春秋)

まず、一歩踏み出すこと。それだけで人生は変わります

四国の専業主婦がEUの大統領と面会……。センセーショナルなタイトルに、思わず目を奪われます。著者の尾崎美恵さんは、香川県丸亀市に暮らす3人のお子さんのお母さん。子育て中に習い始めたフランス語に夢中になり、子育てが一段落した43歳で岡山大学大学院・仏文研究科を独学で受験し、合格！フランス語講師として働く傍ら2008年にはNPO団体『四国夢中人』を立ち上げ、四国とヨーロッパを繋ぐ様々なインバウンド事業を行っています。

『すごいお母さん、EUの大統領に会う』は、そんな尾崎さんのこれまでの活動を、当時のエピソードとともに紹介した一冊。「猪突猛進型で、思い立ったら足場を固める前に走り出しちゃう」と笑う尾崎さんの発想は、実にユニークで斬新。例えば、「パリッ子に本物の讃岐うどんを食べさせたい」と、パリのジャンエキスポに単独でブースを出展したり、ヨーロッパの日本通プロガーを呼んで、四国の魅力を伝えるためのツアーを開催したり、俳人として知られるEU大統領（欧州理事会議長）に「四国について歌った俳句集をプレゼントしたい」とラブレターを出して、EU本部での面会を叶えたり。突拍子もないアイデアを、持ち前の行動力でどんどん実現していく姿は圧巻です。

「人とつながることで道は開ける」



「資金も組織も持たない私にとって、活動を通して培った人脈はなにより私の財産。出会ったたくさんの人たちとの縁によって、次々と新しい試みを実現できたのだと感じています。」(尾崎さん)

……。迷えるアラフォー女性にとつて、尾崎さんは「なにかをはじめめるのに年齢やタイミングなんて関係ないよ」と、背中を押してくれる頼もしい存在。読後は、自分も前向きに人生を楽しみたい！というパワーが、ぐんぐんみなぎってくるようです。「頭で考えるよりも、まず動くこと」。それがこれまでの活動で得た答えですね。歩み続けていけば賛同者が必ず現れます。今後はアートを通じて離島を活性化させたいと話す尾崎さん。「やりたいことはまだまだたくさん。止まっている時間なんて、どこにもありません(笑)」

今更のわたくし
ヘレヘ



すずきめぐみ◎食を中心とした雑誌の編集者を経て、食にまつわる本を扱う「COOKCOOP」のブックディレクターに。現在は、実店舗を持たず、場所やシーンに合わせたブックセレクト、イベント運営を行う。www.cookcoop.com

recommend

あの人がすすめる、 そんなときこんな本

ブックディレクター

鈴木めぐみさんの 「料理の楽しみを感じる本」



『伝言レシピ』

高橋みどり ¥1,500 (マガジンハウス)

作ること、食べることは、
みんなに平等である

人は、料理を作ることや食べる
こと、食についての自分なり
のルールを、大なり小なり持つ
ているように思います。しかし、
それはときに大きな声では語ら
れず、自分でも意識せず存在し
ていることすらあります。

この『伝言レシピ』は、食まわ
りのスタイリストとして活躍す
る高橋みどりさんが、料理研究
家やシェフ、料理上手の友人知
人から「見聞き」し、「掘り出し
た」72のレシピを紹介していま
す。その数々は、言ってみれば
口伝えでもあるため、なかには
素材や分量が記憶違いで紹介さ
れるレシピもあったりしますが、
おもしろければ結果オーライ！
食いしんぼうならではの臨機応

変さを持った、愛嬌のある一冊
でもあるのです。

それにしてもどのレシピも、
食材の組み合わせや調味料の使
い方、ちょっとした調理のコツ
など発見と驚きの連続で、「これ
とこれを合わせるんだ!」とか
「こんなにシンプルなプロセスで
出来上がるんだ」と、味を想像し
にんまりしながら見入ってしま
います。その人にお会いしたこ
ともないのに、勝手に親近感が
わいてくるから不思議です。み
どりさんの手描きで綴られるレ
シピも、ほどよいぬげ感があり、
肩肘張らない気楽さを思わせる
のかもしれない。

わたしはレシピブックをはじ
め、エッセイや絵本、コミック
など、「食」にまつわる本を扱う
仕事をしています。日々、いろ
んな方のレシピに触れさせてい

ただく機会が多いのですが、料
理家さんや作家さんが表現する
「食」を、その人の思想や哲学の
ようなものだととらえています。

そんななかで、この本を手
にするとときいつも感じるのは、「料
理は自由であっていい」という
こと。そして、自分の手を動か
して料理を作ること、自分がお
いしいと思うごはんを食べるこ
とは、多くのみんなにとって平
等であるのだなと思うのです。

その人のこだわりは、読み手に
とっては、もしかしたら些細な
ことかもしれないけど、本人に
とっては、いい塩梅で、まぎれ
もないスタンダード。それを教
えてもらうことで、自らも共感
をおぼえ、わかちあうことがで
きたのなら、それほど楽しいこ
とはありません。

本のなかで紹介されている
「切り干し大根のベーコン炒め」
や「素バスタ」など、気に入って
繰り返し作っているメニューが
いくつかあります。回数を重ね
るなかで自分なりのアレンジを
加えたものもありますが、料理
の真髄はそんなところにあるん
だよな。いつか誰かに伝言して
いたらいいなと願って、今日
も台所に立つのです。

秋の夜長のおともにしたいたい3冊 - BOOK REVIEW -

「愛された理由」が
見えてくる

『お茶をどうぞ 対談 向田邦子と16人』

向田邦子
¥1,600 (河出書房新社)



文章の名人イコールおしゃべりの名人とはいかないが、
この人に限っては話は別。自分自身の胸の内をさらりと
聞きながら相手の懐にすりと入っていく話術に、
テレビ界や文壇の重鎮も次々と陥落！没後35年にし
てなお輝きを放つ向田邦子の素顔がたっぷり。

薔薇がもたらす
甘い棘

『ラヴィアンローズ』

村山由佳
¥1,500 (集英社)



「主婦の抑圧と解放」を書かせたら白眉！著者渾身の
恋愛サスペンス。自庭の薔薇を育てることに心を注
ぐ奥手の主人公が、男らしさと繊細さを併せ持つ歳
下のデザイナーとの出会いによって自我を取り戻し、
また壊れていく様がリアルに、ありありと描かれる。

和菓子から
季節を感じ取る

『IKKOAN 一幸庵 72の季節のかたち』

水上 力、南木隆助
¥4,500 (青幻舎)



日本の四季をより細やかに感じ取る72候をもとに、
見目麗しい和菓子で表現する書籍が新装復刊。当代
随一の和菓子職人である著者の水上氏は以前より海
外への発信も積極的ゆえ、日英仏のトライリンガル
仕様。ただ美しくおいしだけじゃない真髄がここに。